

「インスピレーションになろう」から 「奉仕を鼓舞する人になろう」へ

－2018-2019 年 RI テーマ「インスピレーションになろう」と「四つのテスト」－

2018 年 7 月 31 日

日出ロータリークラブ会員 加賀山 茂

1. 今年度の RI のテーマの和訳「インスピレーションになろう」は、「四つのテスト」に適合的でない

(1) 「インスピレーションになろう」は、日本では「インスピレーション（発想力）を強めよう」と理解される



2018-2019 年度 RI（国際ロータリー）会長であるバリー・ラシン（Barry Rassin）氏が提唱する今年度のテーマは、左のロゴに示されているように、「インスピレーションになろう」である。

日本のロータリアンの一員として、この日本語の意味は、「インスピレーション（発想力）を強めよう」とか、「インスピレーション（発想力）の豊かな人になろう」ということなのだろうと思って、四つのテスト（①真実かどうか、②みんなに公平か、③好意と友情を深めるか、④みんなのためになるかどうか）に照らして実行しようと試みた。

しかし、「インスピレーション（発想力）を強めよう」とか、「インスピレーション（発想力）の豊かな人になろう」というテーマについて、ロータリアンの行動指針である「四つのテスト」に照らし合わせてみた結果は、意外なことに、四つのテストに反することが分かった。

(2) 「インスピレーションになろう：インスピレーションを強めよう」は、四つのテストに適合しない

第1に、「インスピレーション（発想力）を強めよう」と努力することは、果たして、「①真実かどうか」。

- バリー・ラシン会長は、“**BE THE INSPIRATION**”と呼びかけておられるのだが、この英語の意味は、「インスピレーション（発想力）を強めよう」ではないようである。
- むしろ、「人をインスパイア（勇気を鼓舞する）人になろう」と解釈するのが正し

いらしい。

- 「インスピレーションになろう」という日本語は、日本の多くのロータリアンにとって、「インスピレーション（発想力）を強めよう」と受け止められているようだが、日本語訳も、その受け止め方も、どちらも、「真実ではない」ようだ。

第2に、「インスピレーション（発想力）を強めよう」とすることは、「②みんなに公平か」。

- たとえ、自分のインスピレーション（発想力）が強められたとしても、人それぞれなので、自分のインスピレーション（発想力）を強めることが、「みんなに公平になる」とは思えない。

第3に、「インスピレーション（発想力）を強めよう」と努力することは、「③好意と友情を深めるか」。

- 「インスピレーション（発想力）を強めよう」と努力すれば、自分が瞑想の世界に浸ることにはなるだろうが、そのことによって、「好意と友情が深まる」ことはなさそうだ。インスピレーション（発想力）は、深い内省によって得られるものであり、他者との関係から生じるものとは考えられていないからである。

第4に、「インスピレーション（発想力）強めよう」と努力することが、「④みんなのためになるかどうか」。

- 「インスピレーション（発想力）を強めよう」とすれば、自分のためになることは確かである。しかし、そのことが、「みんなのためになる」とは思えない。

(3) 発想の転換の必要性

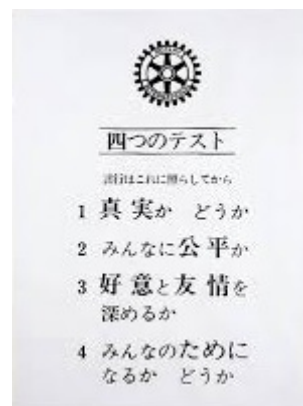
このように考えると、バリー・ラシンRI会長の主張する“BE THE INSPIRATION”は、普通の日本人が受け止めることになる「インスピレーション（発想力）を強めよう」ではなく、他者に対して、「奉仕を鼓舞する人になろう」という呼びかけと解釈しなければならぬ。

なぜなら、“BE THE INSPIRATION”とは、「人を鼓舞する人たれ」という意味であり、英語の日本語訳としても、「奉仕を鼓舞する人になろう」と訳するのが穏当であろう。

2. 「インスピレーションになろう」から「奉仕を鼓舞する人になろう」へと日本語訳を改めよう

(1) 「奉仕を鼓舞する人になろう」は、四つのテストに適合する

このように日本語訳を変えて、四つのテストにかけてみれば、その結果は歴然とする。



四つのテスト

- 「奉仕を鼓舞する人になろう」は、バリー・ラシン会長の真意をとらえており、
- ①真実のテストをクリアする。しかも、その努力はすべてのロータリアンにとって
- ②公平をもたらし、
- ③好意と友情を深めることになり、
- ④みんなのためになる。

(2) 「インスピレーションになろう」に代えて「奉仕を鼓舞する人になろう」という日本語訳を採用するよう「勇気を鼓舞して」働きかけよう

四つのテストによって、私たち日本のロータリアンがやるべきことが明らかになったと思われる。そこで、日出ロータリークラブのロータリアンに以下のことを提案したい。

- 「インスピレーションになろう」という4つのテストに不適合な日本語は、少なくとも、日出ロータリークラブとしては、不採用としよう。
 - なぜなら、バリー・ラシン RI 会長の主張する“**BE THE INSPIRATION**”を原語で理解している世界のロータリアンと、誤った日本語訳で「インスピレーションになろう」という誤った日本語訳を信奉する日本のロータリアンとで共通理解ができない状態に陥っているからであり、ロータリアンとして、このような齟齬を放置すべきではないと考えるからである。
- 日出ロータリークラブでは、「インスピレーションになろう」に代えて、「奉仕を鼓舞する人になろう」という日本語を採用しよう。
 - バリー・ラシン RI 会長の主張する“**BE THE INSPIRATION**”における“**THE INSPIRATION**”は、先に述べたように、「**勇気を鼓舞する人**」という意味である。
 - 例えば、Chicago のラブソングである“**You are the inspiration**”における“**THE INSPIRATION**”は、以下のように「**勇気を鼓舞する人**」という意味で使われている。

You're the meaning in my life, あなたは、私の人生に意味を与え、
 you're the inspiration. 勇気を鼓舞してくれる人。

You bring feeling to my life, あなたは、私の人生に感性をもたらし、
 you're the inspiration. 勇気を鼓舞してくれる人。

- しかし、日本語の「インスピレーション」には、「天からの啓示によるひらめき、創造的な発想」などの意味はあるものの、英語におけるような、天に代わって「勇気を鼓舞する人」という意味は存在しない。
- つまり、「インスピレーションになろう」という日本語は、善意に解釈した

としても、「インスピレーション（ひらめき）を感じれる人になろう」と理解されるにとどまり、「内向き志向」が推奨されることになってしまう。これは、「他者への働きかけ」を推奨するバリー・ラシン RI 会長の真意を表わしていない。バリー・ラシン RI 会長の真意を伝える日本語としては、**内向き志向の「インスピレーションになろう」ではなく、他者への働きかけを推奨する「奉仕を鼓舞する人になろう」が適切**である。

- 他のロータリークラブに対して押し付けることはできないが、RI のテーマの日本語を変更できる権限を有する人々に対して、色々な機会を捉えて、以下のことを丁寧に説明しよう。
 - 「インスピレーションになろう」というテーマは、日本語として意味不明である。むしろ、日本の多くのロータリアンに、「インスピレーション（発想力）を強化しよう」という意味であろうとの誤解を生じさせており、日本のロータリアンのテーマとしては、不適合である。
 - この日本語訳に代えて、「奉仕を鼓舞する人になろう」が採用されるよう、あらゆる機会を利用して地道に働きかけよう。

(3) 結論 ロータリアンとして、迷うことがあれば、「四つのテスト」に従って行動しよう

ロータリアンならば、言行に迷いが生じたときは、「四つのテスト」に即して行動すべきである。「インスピレーションになろう」という日本語は、“**BE THE INSPIRATION**”という原語で理解している世界のロータリアンと、「インスピレーション（発想力）を強化しよう」と誤解している日本のロータリアンとの間に重大な齟齬を生じさせており、この事態を放置すべきではない。

「インスピレーションになろう」という日本語は、公式訳であるが、それが日本の多くのロータリアンに誤解を生じさせている。そして、内向き志向の「インスピレーションになろう」よりも、他者への働きかけを推奨する「**奉仕を鼓舞する人になろう**」とする方が、四つのテストに適合的であることも明らかである。

そうだとすれば、このことをロータリークラブの機関誌である『ロータリーの友』への投稿をしたり、それぞれの地区のガバナーに上記の事情を説明したりすることを通じて、ミスリーディングな日本語は改訂するように働きかけるのが、わが国のロータリアンとしての使命であろう。

「インスピレーションになろう」に代えて、「**奉仕を鼓舞する人になろう**」という日本語訳を広めることによって、はじめて、バリー・ラシン RI 会長の主張する“**BE THE INSPIRATION**”の意図が日本のロータリアンの心に響くようになるのではないだろうか。